

身近な文化財

第五話
路傍の石仏

石仏（石でつくられた仏像）は、屋外の身近な場所で見ることが出来る文化財のひとつです。寺院や神社を訪れると、さまざまな種類の石仏を見つれることができます。また集落の道端などにも、思いがけず古い時代の石仏が置かれています。

鹿嶋神社（大鹿島）の境内にある釈迦如来は、台座を含めると高さ2mほどで、白河の古い石仏としては比較的大型です。正徳5年（1715）に諸国の

神社巡礼を終えた記念として地元民によって奉納されたもので、信州高遠（長野県伊那市）の石工によって作られました。市内の関川寺（愛宕町）にも同規模の石仏がありますが、こちらも高遠石工の作です。高遠石工は優れた技術を持ち、各地に出稼ぎをしていました。

集落のお堂や道端でよく見かける石仏に如意輪観音があります。片膝を立て、頬づえをついた優雅な姿勢が特徴です。集落の女性が集って飲食をする十九夜講（子安講）を記念して作られることが多いようです。

市内で珍しい石仏に青面金剛があります。6本腕に憤怒の顔をした仏で、台座に三猿（見ざ

る・言わざる・聞かざる）がいます。庚申講（曆上の庚申の日）に集まって飲食をする行事の時に作り、厄除けを祈願します。このように、何気ない道端でも200年、300年前の歴史に触れることができます。石造物と「講」との関係は、また別の号でご紹介します。

問文化財課 ☎2310



▲青面金剛（表郷梁森都々古和気神社）



▲如意輪観音（大信隈戸薬師神社）



▲釈迦如来（鹿嶋神社）

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.5

本庁舎都市計画課 内2232

今月号は、景観づくりの主な取り組みをお知らせします。

JR白河駅の周辺は、歴史と文化の拠点となる地区として、景観計画の重点区域に位置づけられており、小峰城跡や白河駅舎などの歴史的資源に配慮した景観づくりを行っています。

以前は、小峰城跡三重櫓が駅前交番や大型案内標識に隠れ、見えにくいといった声が寄せられていました。(写真①)

このため、駅周辺の景観とまちなみのあり方をテーマに、関係機関の話し合いや景観セミナーなどで検討を重ねてきました。

その結果、駅前交番の移転・改修、大型案内標識の撤去、駅プラットホームの屋根の塗り替え、無電柱化など、景観に配慮したさまざまな取り組みが行われ、現在は、三重櫓がきれいに眺められるようになりました。(写真②)

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ

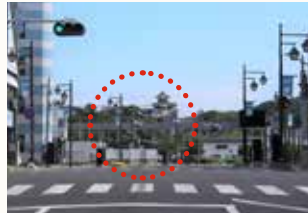


これからも、三重櫓への眺めを大切にしながら美しい駅前の景観をつくっていきましょう。

写真① 平成22年ごろの様子



写真② 現在の様子



これらの取り組みが評価され、平成26年度都市景観大賞の都市空間部門で優秀賞を受賞しました。

写真を見比べると違いが分かるね！

